グローバル人材育成の試み（２）
－台湾研修旅行を実施して－

副校長　石　井　朋　子
主幹教諭　石　出　みどり
地理歴史科（地理）　菊　池　美千世

１．はじめに

2013 年 10 月 20 日（日）～24 日（木）、４泊５日の台湾研修旅行を学校行事として行い、１年生～３年生の生徒 22 名を教員２名が引率した。

プログラムの主目的は台北市立第一女子高級中学校（通称北一女）との学校交流・ホームステイである。北一女は 1904 年創立、全校生徒数約 3000 名の大規模校で、台北市のナンバーワン女子高校である。

北一女との交流のスタートは 2007 年にさかのぼる。今回の研修旅行でも後援をしていただいたＮＰＯ法人ベーシックライフインフォーメーション協会（理事長：田代實範氏、理事：加藤美智子氏、浅田豊氏、以下ベーシックと略）を通じて北一女から本校との交流の希望が届き、2007 年 12 月に校長他教員２名が来日し、本校を訪れた。2009 年 11 月には北一女の人文クラスの生徒２０名が来校し、授業・ホームルーム・クラブ活動等の交流を行った。さらに 2010 年 11 月に石井が台北に赴き、北一女を訪問した。そして 2013 年の３月に「10 月 22 日（火）に学校交流ができるように準備して台北でお待ちしています。」とのご連絡をいただいた。校内企画運営委員会での検討を経て、５月 16 日の教員会議で交流事業の実施が承認され、今回の研修旅行が実現した。

本校では学校行事として生徒の海外研修を行うのは、2004 年３月 22 日～31 日にオーストラリア・マクロブ高校との交流に生徒９名を教員２名が引率して（引率経費は学長裁量経費）以来、久しぶりのことである。2012 年末にイオン１％クラブの主催の日中高校生交流事業で 15 名の生徒を１名の教員が引率して北京を訪問し、学校交流やホームステイを行った経験があったことが大変参考にはなったが、旅行の企画、生徒募集、事前指導、北一女との連絡調整、事後指導、報告書の作成等、一連の流れは決してスムーズとはいえないものであった。しかし今回の経験から、学校行事として生徒を海外に引率するためのノウハウについて様々な知見を得ることができた。ここに記録をとどめ、今後の国際交流・グローバル人材育成の手がかりとしたい。（石井）

２．旅行行程

旅行行程としては 10 月 22 日（火）の学校交流、その夜の北一女生徒宅でのホームステイを中心に計画を行った。10 月 19 日（金）まで２学期の中間試験があることから、１日おいて 10 月 20 日（日）出発の４泊５日とした。台北以外にもいろいろ見所は考

えられたが、移動の効率や費用の点から、宿泊はすべて台北市内とした。また、台湾の歴史、文化、現在の日本との関係などを中心に、北一女との交流以外の見学地等を選択した。高校生の交流という視点で、国立台湾戯曲学院での交流を追加した。最終的にできあがった旅行の日程表を資料①に示す。（石井）

３．生徒募集と選抜

７月４日の教員会議で実施要項案が承認され、直ちに参加者募集を行った。夏休み前に参加者を決定するためのぎりぎりの日程であった。全校に配布した参加者募集のお知らせを資料②に示す。定員 20 名に対して 54 名の応募があった。学年の内訳は３年１名、２年 24 名、１年 29 名であった。様々な条件から引率教員２名を含め全体を 24 名とすることとした。生徒 22 名の参加者は以下のように決定した。まず、昨年度の日中高校生交流事業、今年度のアジア・エコリーダーズの参加者は除外とした。次に３年生の応募者１名と、昨年度の日中高校生交流事業および今年度のアジア・エコリーダーズ両方に応募者して、選にもれた３名を優先的に決定した。残る１８名の枠を２年生 12 名、１年生６名と２年生を優先し、抽選で決定した。ただし、１年生は全体枠が少ないので、クラスの偏りがないように、各クラス２名ずつとした。アジア・エコリーダーズのプログラムとは区別し、語学力や小論文による選抜は行わなかった。この研修旅行への参加が国際交流等への興味・関心・意欲を持つきっかけになればよいと考え、希望者になるべく平等にチャンスがあるようにと考えた結果であった。最終的には３年生１名、２年生 15 名、１年生６名となった。

参加が決まった生徒には早速パスポートの手配、保護者の参加承諾書、ホームステイ先決定のための情報提供となるパーソナル情報（英語版）の提出の連絡を行った。パーソナル情報には生徒の趣味などに加え、アレルギーや食べられない食品の有無なども記載できるようになっている。昨年の日中高校生交流事業の際にイオン１％クラブから求められたものを一部改訂して使用した。（石井）

４．事前指導および事前準備

研修旅行の実施が年度途中の５月に決定したため、受け皿となる分掌がなく、主幹教諭として見学地の選考より副校長とともに任に当たった。コースなど実施要項の決定は７月４日、参加生徒の決定は終業式の前日（７月 18 日）となり、事前指導は急ごしらえで進んだ。しかし事前指導を単独で担当することは難しくなり、後述の係のうち「しおり作成」係の指導を北原武教諭に、「報告・報告集作成」係の指導を引率者のひとりである菊池美千世教諭に依頼した。

参加生徒の最初の集合は７月 19 日、終業式後のホームルームのあと参加生徒 22 名を集め、副校長からの諸連絡のあと係分担と事前学習についての連絡を行った（資料③）。（石出）

（１）代表処台湾紹介

今回の北一女との学校交流が決定したことを受けて、台北駐日経済文化代表処にこの交流を応援していただけるよう、ベーシックを通じて連絡を取っていただいた。６月に石井が出向き、当時の副代表・羅坤燦氏、教育組組長・林文通氏、教育組秘書・王鴻鳴氏と面会、応援をお願いした。また、その際に代表処の方に本校においでいただきたいという希望をお話ししておいた。これが実現し、１学期の終業式の日に教育組秘書・王鴻鳴氏が来校された。通常終業式は体育館で行うところを、この日は大学講堂に変更した。終業式終了後、台湾全体の紹介を王氏のお話とＤＶＤの映像を通じて行っていただいた。事前指導の手始めとして、台湾全体を概観することができた。また、交流に参加する生徒だけではなく、全校生徒が話を聞く機会をもてたこともよかったことである。（石井）

（２）係分担

参加生徒は学年・クラスをまたがる多様なメンバーのため、２年生各クラスから１名、３年生は１名のため本人、１年生は計６名から１名の連絡係を選出した。その際「全員が希望して抽選の結果参加可能となったのだから、誰もが積極的なはずである」と添えると、希望する手がすぐ挙がった。

続いて「しおり作成」「交流（会）企画」「報告・報告集作成」の係が必要であることを説明し，決定したばかりの連絡係（まとめ役）の生徒に係決めの司会、記録を担当させた。３グループの人数は均等、連絡係もどこかの係に入ることとする。メンバーが決まると係別に分かれ、各係長を決めさせた。これらの分担は修学旅行等の方式をなぞっている。

「しおり」は旅行社が作成する旅程表とは別に、日程や名簿、部屋割りを示すもので、ステイ先一覧、持ち物リスト、交流会で歌うことになった歌の楽譜、各訪問先についての説明も記載された。「交流（会）企画」係は北一女との学校交流や他の公的訪問のため準備が必要と考えた。生徒には「この旅行は研修と友好のための学校交流、ホームステイなのだから、お客さんとしておもてなしを受けるだけではいけない。本校や自分、日本を英語で紹介する他に、台湾の方達と楽しいひとときを過ごせる何かを用意すること」と伝えた。「報告、報告集作成」係は、帰国後この経験を参加者以外の生徒と共有するため、報告会を設け、報告集も作成することを見通して用意した。生徒は仕事の内容や時期を考えて選んだようである。９月に入ってからは係の進行が滞らぬよう、プリントやメール網で連絡を重ねた。（資料④⑤⑥）（石出）

（３）映像で学ぶ台湾

世界史担当教諭として、授業で台湾の歴史を充分には扱えないため、旅行前に事前指導が必要であると考えた 。しかし急な決定のためもあり、夏休み中に多くの参加生徒が登校できる日程は、２日間であることがわかった。それも３年生の世界史補習日と重なったため、映像を用いた学習とすることにした。しかし候補と考えた作品はＤＶＤ化されていなかったり、入手が間に合わないことがあり、「台湾人生」

(2009年、酒井充子監督）と「冬冬の夏休み」（1984年、侯孝賢監督）を用意した。進め方は当日鑑賞前に作品の背景について資料を配布、短い解説をし、途中説明の必要な箇所で休止して説明、終了後に質疑応答、感想の交換という流れである。

ドキュメンタリー映画「台湾人生」は、日本統治時代に「日本人」として生まれ育ち、戦後国民党統治、1947年の2.28事件を経験した今は高齢となった人々へのインタビューだが、複雑な歴史背景を知らないと理解は難しい。監督の同名の著書『台湾人生』からの抜粋とＤＶＤの資料からの抜粋、『知っておきたい中国Ⅲ台湾・香港・マカオ』（1996年、青木書店）からの抜粋を資料として配布し、続編の映画「台湾アイデンティティー」が折しも都内で上映中であると鑑賞を勧めた。

「冬冬の夏休み」は台湾を代表する侯孝賢監督の作品で、監督の自伝的なノスタルジックな作品である。少々古い感じはするが，舞台となる台湾の農村部やかつての日本と同じ子どもたちの夏休み、戦後の村に日本統治時代が見え隠れすることを知ってほしいと考えた。

また２学期に入り、７月の学習会に間にあわなかったＤＶＤを入手できたので、文化祭後の10月１日に「日本統治下の台湾 - 南進台湾」から一部分を鑑賞した。この作品は日本が設置した台湾総督府の後援で製作された昭和14年の国策記録映画で、国立台湾歴史博物館で2003年に発見されたフィルムを修復、ＤＶＤ化した戦前の台湾を知る貴重な映像である。（石出）

（４）調査レポート、レポート発表会

２学期にレポート発表を行うことを前提に，夏休み中台湾に関連するテーマを各自設定し、調べることを課題とした。参考資料となる25冊のブックリストを作り、配布する。提出日は９月１日、内容はあらかじめ発表用のレジュメにまとめさせた。それぞれが選んだテーマは資料④のとおり、資料⑦⑧⑨に例を示す。

発表は当初は９月21、22日の文化祭終了後でなければ、難しいと考えていた。しかし中国語の学習や歌練習、交流会の練習も重なり日程はきつい。連絡係の生徒に相談すると、できるだけ早く進めようということになり、唯一の３年生にテーマ別に分け発表順を考えるよう指示した。その分類に従い、９月11日、13日の昼休みに社会科教室で発表、教員にも参加を呼びかけた 。しかし２回では22名分を終えることはできず、９月18日に３回めの発表会をもった。

発表会では筆者は印刷など裏方に廻り、出欠チェック、司会進行を連絡係生徒に任せる自主的な運営を心がけた。ここでは１年生と２年生の間に発表のあり方や内容で大きな違いが目立った。１年生自身も差を感じたことと思う。通常の学習では学年混交で同じ課題に挑戦する機会はほとんどない。１年１年の伸びが大きい高校生の時期ゆえに目立ったのだが、このように上級生の発表を目の当たりにすることも、下級生に良い刺激となったと考える。（石出）

（５）歌練習

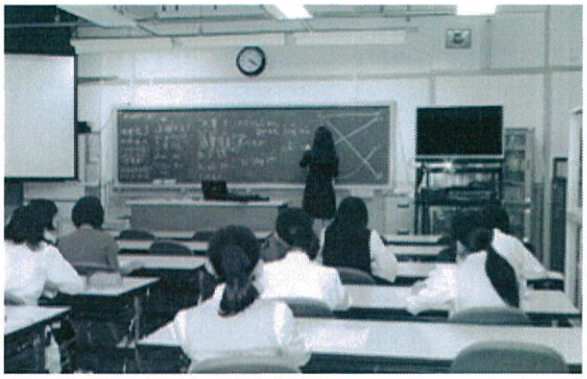
９月26日の放課後、ベーシック加藤美智子氏のお知り合いの張瑞銘先生が来校

され、交流会で歌う予定の「阿里山之歌」「望春風」の歌唱指導をしてくださった。慣れない中国語の発音は難しく思われたが、台湾訪問は３週間後に迫り、少しずつ現実味を帯びていった。（石出）

（６）中国語会話練習

９月２日、お茶の水女子大学の学生・キャリア支援チームに中国語（北京語）会話の初歩レッスンのための求人票を提出した。留学生、できれば台湾出身の方との条件をつけたところ、13 日に博士後期課程に在学中で台中市出身の王湘榕さん（比較社会文化学専攻、研究テーマは中国語と日本語の対照研究）と連絡がとれ、文化祭終了後の 30 日と 10 月２日の２回、放課後にレッスンを行った。テキストは市販の中国語テキストから必要と思われる部分をコピーし、配布した。その後王さんにＩＣレコーダーに録音していただいた音声を生徒に渡し、レッスンの時間不足を補った。高校生どうしの交流は英語で可能でも、訪問先へのマナーとして、またホームステイを円滑に進めるためにも、挨拶や自己紹介の準備が必要だと指導した。

以上（３）から（６）の事前指導のうち、レポート発表を除く３つには参加できなかった生徒もおり、全員が出席したわけではない。しかし途中退出も可とし、生徒はできるだけ参加するよう努めた。（石出）



中国語レッスン

（７）その他の事前準備

９月 22 日（日）、文化祭の２日目の午後に、参加者の保護者説明会を行った。準備の進行状況を説明するとともに、旅行費用の振り込み、旅行保険の申し込み、ホームステイ先へのおみやげ品の用意などについて説明を行った。

北一女には参加生徒が決まったところで、ホームステイ先決定の参考資料として生徒のパーソナル情報（英語版）を送った。併せて、台北での見学地として、北一女の目の前に位置する総統府と台湾賓館の手配をお願いした。この２カ所については旅行業者を経由するよりは学校経由がよかったようである。また、10 月 22 日の学校交流の翌日の見学スケジュールに、引き続き北一女の生徒に同行してもらえないかということを問い合わせていたが、公欠の規定が厳しく欠席扱いになってしまうため、保護者の同意が得られないとのことであった。

さらにホームステイ先が決定したら、こちらから送ったものと同じ形式でパーソナル情報を送ってくれるようお願いした。残念ながら出発までにこれらの情報は届かなかった。ホームステイ先の生徒のメールアドレス一覧が届いたので、出発前にこちらからメールを出して、一定の情報交換をしておくようにとの指示を出した。

あちらからは達者な日本語でメールが来た例もある一方、出発までに連絡が取れずじまいの生徒もいた。最終的にはホームステイ先の情報が全くない生徒と、かなり事前に情報交換ができていた生徒がおり、ばらつきが大きかった。あちらも６月末から夏休みに入っていたこと、こちらの派遣生徒の決定が７月後半になってしまったことなど、準備の時間が短かったことが反省としてあげられる。（石井）

４．実施

（１）５日間の流れ（生徒報告書より）

５日間の行動の流れ全体は資料①の日程表を参照されたい。現地での変更は、２日目、外交部主催の昼食会が盛り上がり、時間が長くなったため、二二八和平公園の見学ができず、車窓から位置を確認するにとどまったことである。その他はほぼ予定通りのスケジュールをこなすことができた。

（２）北一女との学校交流とホームステイ

今回の研修旅行のメインイベントは北一女との学校交流および生徒の家庭でのホームステイであった。５日間の日程の３日目から４日目にかけて行われた。おおよそのスケジュールを以下に示す。

当日バスが北一女に到着すると、正門前で、生徒たちが出迎えてくれ、ホームステイ先の北一女の生徒とお茶の水の生徒がペアになってホールに向かい、早速自己紹介が始まった。緊張していた生徒もすぐにうち解けた雰囲気となった。

続いて始まった歓迎式では、日本語が堪能な北一女の生徒（交流大使）が進行役を務め、北一女張校長の挨拶、お茶高石井副校長の挨拶、記念品の交換が行われた。その後映像と交流大使による説明で、北一女の学校紹介が行われた。最後に全員で記念撮影を行った。

10月22日（火）

9：20	北一女到着、ペアとなる生徒と対面
9：40	歓迎式・校長挨拶、副校長挨拶、記念品交換、北一女学校紹介
10：20	総統府見学
11：20	台北賓館見学
12：45	昼食
13：30	キャンパスツアー
14：00	授業参加
15：10	ＨＲ参加
16：20	部活参加
17：20	お茶高の学校紹介他
18：00	ホームステイに出発

10月23日（水）
8：00　生徒登校
8：30　北一女出発

その後、徒歩で学校のすぐ前にある総統府に向かい見学を行った。総統府の見学は事前申し込みが必要であり、団体見学が主のようで、北一女の生徒も楽しみにしていたようだ。また、その後に向かった台北賓館は日本統治時代の総督公邸で、現在は台湾政府外交部が迎賓館として使用している処であり、一般には月に１日しか公開されていない。今回本校からお願いして、北一女から外交部に特別の参観の許可を取っていただいたものであった。北一女の生徒も初めて見学する生徒がほとんどであったようである。どちらも担当者がいて、北一女の生徒には中国語で、本校生徒には日本語で説明が行われた。生徒同士がばらばらになってしまったのは残念であったが、どちらの施設も、詳しい説明を聞き、その建物に身を置くことで、日本統治時代の台湾と日本の関係について、実感を持って考えることができた。大変貴重な体験であった。

北一女に戻り、昼食後、生徒たちは４～５人ずつの５つのグループに分かれて生徒と交流を行った。交流した授業、ＨＲ、部活動を以下の表に示す。北一女の生徒たちはどのグループでも大変明るく元気があり、フレンドリーな雰囲気で本校生徒を迎え入れてくれていた。英語のクラスでは本校生徒か一人ずつ英語で自己紹介を行ったり、数学のクラスではグループで意見を出し合いながら問題を解いたりしていた。

グループ	授業	ホームルーム クラス名	クラブ活動
A	英　語	温	Manga Club
B	中国語	信	Traditional Sports Club
C	数　学	平	Japanese Culture Club
D	数　学	義	Dessert Club
E	数　学	孝	Science Club

クラブ活動を終えた生徒たちは再びホールに戻り、本校の学校紹介等を行った。交流係の生徒７名が担当した。生徒自身が日常感じているお茶高の特色を、校風、学習、行事、部活動などに分け、それぞれ原稿を用意し、英語に直して準備を行った。また、説明のための写真も生徒たちが自ら選んで用意した。出発前から準備をしていたが、現地に着いてからも直前までスピーチの練習を行っていた。当日はそれぞれ係の生徒は緊張しながらも、お茶高の特色や良いところを北一女の生徒に理解し

てもらうため、元気に堂々とアピールしていた。最後に全員で中国語の歌を披露した。ずっと練習してきた「阿里山乃歌」と手話が入る「世界に一つだけの花」の２曲で、ピアノ伴奏も生徒が分担した。「世界に一つだけの花」は北一女の生徒も一緒に歌ってくれたらいいな、と係の生徒が考えての選曲だったが、予想通りに唱和がおこり、交流会を締めくくることができた。その後三々五々ペアで連れ立ってホームステイに向かった。

翌日は８時に登校、北一女の生徒たちに見送られ、８時30分には、バスが学校を後にし、新竹のサイエンスパークに向かった。報告書から学校交流を取り上げたもの、ホームステイの報告のいくつかを資料⑩に転載する。

（３）国立台湾戯曲学院との交流

国立台湾戯曲学院は、台湾の伝統芸能である京劇の技術者を養成する国立の専門学校で、10歳から22歳の生徒が寄宿生活を送っている。10月23日（水）12時半にバスで到着すると、ほぼ同年代の生徒18名が出迎えてくれた。早速歓迎のご挨拶をいただき、こちらも返礼をした。レッスン室で給食の昼食を頂く。戯曲学院の生徒たちは英語でのコミュニケーションが北一女の生徒ほどできない者も多かったが、それでも大変フレンドリーに接してくれ、すぐにうち解けることができたようであった。昼食後はメイクアップの授業への参加、生徒のよる雑技の公演、京劇の公演を校内のステージで見せていただいた。さらに様々な展示や実演を通して、京劇の概要について学ぶことができた。短い時間であったが、伝統芸能を支える同年代の生徒たちとの交流は良い体験となった。報告書から戯曲学院について取り上げたものを資料⑩に転載する。

（４）中華民国外交部（亜東協会）主催昼食会

台湾の対日窓口である亜東協会代表の羅坤燦氏をはじめとする皆様が、歓迎の昼食会を開いてくださった。羅氏は北一女と本校の交流がスタートした２００７年以来、台北駐日経済文化代表処の副代表として交流を応援してくださっていた。台北訪問が具体化しつつあった昨年８月には副代表を退任され、台北に戻られたので、このような機会を設けていただくこととなった。当日は羅氏をはじめ、協会の皆様は昼食をともにしながら生徒と親しく懇談してくださった。こちらも生徒代表のスピーチ、中国語で「阿里山乃歌」を合唱し、お礼とした。

（５）台湾日本人会・台北市商工会訪問と講義

研修旅行の最終日、台湾日本人会・台北市日本商工会を訪問し、会長の山本幸男氏より台湾と日本の関係についての講義を伺った。長く深く台湾に関わっていらっしゃる山本氏のお話は、台湾と日本の過去・現在・未来にわたる広汎なもので、研修の締めくくりとして大変参考になった。

（６）その他

上記も含め、その他の見学地等については資料⑪に写真を掲載した。（石井・菊池）

５．事後指導

（１）報告書作成

帰国後、報告書の作成を行った。以下がその目次である。３の台湾研修旅行報告書は、事前に分担していた報告書係が各分担場所を２～３ページ程度にまとめたものである。また、個人報告書①は、参加生徒全員が各２ページずつを担当した。各自がもっとも印象に残ったテーマを３つ上げ、それらについての説明と、ホームステイ先での報告を行った。個人報告書②は、参加生徒全員が各１ページを担当し、全体の総括を行った。冊子はＢ５判両面刷り、８６ページの構成となった。表紙以外は白黒とし、校内で印刷、製本を行った。できあがったものは生徒に配布し、それ以外には学校保存用、北一女、代表処、ベーシックをはじめ、今回の研修旅行に関わってくださった各方面にも見ていただくべく発送した。個人報告書②の一部を資料⑫に転載する。（石井）

1	台湾研修旅行報告書作成に当たって　副校長　石井朋子	
2	日程表	
3	台湾研修旅行報告	
	①事前学習について	担当生徒①
	②５日間の日程	担当生徒②
	③台北１日目	担当生徒③
	④台北２日目	担当生徒④
	⑤台北３日目	担当生徒⑤
	⑥台北４日目	担当生徒⑥
	⑦台北５日目	担当生徒⑦
	⑧参加者名簿・係一覧	
4	台湾研修旅行　個人報告書①	
5	台北研修旅行　個人報告書②	

（２）全校報告会

研修旅行の参加者は社会科の授業やホームルームの時間などに、それぞれのクラスで簡単な報告をしていたが、全体としてまとまった報告をする機会がなかった。そこで、２学期期末試験終了後の 12 月 19 日（木）11:30 ～ 12:30 に、８月に行われたアジア・エコリーダーズの報告と合わせて、海外研修の報告会を行うこととした。

高校には２学年が同時に入れる教室がないため大学の教室をお借りし、１・２年生全員を対象として研修旅行の様子を発表した。報告書係の２年生が中心となって、映像資料と発表原稿を用意し、５日間の台湾での活動内容を報告した。（菊池）

６．調査

研修旅行終了直後の 2013 年 11 月に行った事後アンケートの集計・まとめを資料⑬に、また、終了後半年が経過した 2014 年４月に行った事後アンケートの集計・まとめを資料⑭に示す。（石井）

７．考察とまとめ

（１）企画運営

本校には国際交流を担う分掌がない。今回のような企画が起こった場合、現在のところ内容等の検討は企画運営委員会で行い、原案を作成し、教員会議の承認を得る。企画の実行は副校長が中心となり、その都度必要なメンバーを招集したり、タイ王国留学生のお世話をしている留学生受け入れ実務委員会の応援を得たりして行っている。今回は副校長、主幹教諭、次期副校長でほとんどの実務を行った。

また、研修旅行の生徒費用については基本受益者負担であったが、５万５千円という比較的安価な価格で実施できたのはベーシックから寄付という形で資金援助をいただいたり、観光協会などのご協力によるものである。ある程度定期的に行っていくためには、経済的に自立することが必要である。基本的には生徒の費用については自己負担を原則とするものである。生徒の事後アンケートでは、全体の２／３がもう少し費用がかかっても参加したと回答している。一方、全体の１／３の生徒は高い金額であれば参加しなかったと答えている。教員の引率費用については、教育後援会の全面的な援助をいただいた。

このような学校行事をある程度定期的に行うためには、企画運営、準備、引率等に当たるスタッフの存在と、引率費用などの経済的基盤が必要である。また、広く生徒にチャンスを与えるためには、生徒についても援助があるとよい場合もある。

さらに企画の一部には学校や旅行業者だけでは扱いきれない内容を含んでいる。ベーシック、代表処、観光協会などのご協力によって内容が大変充実したものとなった。学校として自立しながら、どの部分について、どのように協力をお願いするか、課題である。

実施の時期については、今回は北一女からの指定であった。２学期中間試験とダンスコンクールの間隙を縫って行われた。生徒の希望はやはり夏休みや冬休みなどの長期休暇中が多い。実施時期の決定も課題の１つであるが、学校交流・ホームステイを含む企画であれば、実施時期は自校だけでは決められない問題となる。

（２）事前指導

事前指導についても年度途中からのスタートであり、受け皿となる組織がなかったことから、組織的、計画的に進めることが難しかった。参加生徒が決定し、事前学習をスタートさせる段階で、見学場所が最終的に決まっていなかったことも反省点である。生徒のアンケートにあるように、見学場所についての事前学習や産業・経済面の学習が不足していた。夏休み中に課した調査のレポートも、テーマ設定は

生徒の自由に任せて行ったが、研修旅行の内容全体を見通して分担させることができれば、より有効な学習になったことと思われる。事前学習はどんなにやってもやりすぎるということはない。

（３）実施

学校が行う研修旅行は、国内外を問わず、一般の個人旅行や家族旅行では実現できない計画を行うことに意義がある。学校交流、ホームステイはそのような目的に最も沿った内容である。生徒の評価もかなり高かった。今回の交流ではホームステイの時間がもう少し長くとれるとよかったという評価が多い。

また、見学地についても、もう少し時間的にゆとりがあると良かったという声がある。交流を中心にすえれば、それらに沿った見学地を精選し、じっくり見学するということでよいのかもしれない。

今回参加生徒 22 名に対して引率教員２名であった。旅行中、生徒の健康状態はまずまず、病院に行く、ホテルで待機等の場面はなく、帰国することができたことは幸運であった。生徒約10名に対して引率１名は適当な配置であったと思われるが、何かトラブルが起こると、この配置では問題が生じることもあり得る。最低限必要な人数であったと思われる。

（４）事後指導

事後指導としては報告書の作成と、全体への報告会を行った。報告書については、出発前の分担の段階で全体の構成がわかっていた方が良かった、という生徒からの反省・要望が上げられた。あらかじめわかっていれば、どのように報告書を作るかを念頭に置いて現地で過ごすことができるというものである。

帰国直後に１・２年生の社会科の授業やホームルームなどでクラス単位の報告は行っていたが、個人の印象中心の短時間の報告に終わってしまった。自主的にやってくれていたものと思われるが、２学年規模の報告会だけでなく、クラス単位や、もう少し小さなグループ単位で報告会ができれば、さらに情報を共有することができたかもしれない。

（５）今後に向けて

研修旅行の実施から半年が経過した 2014 年４月に、参加生徒に対して行った事後アンケートでは、参加生徒のほぼ全員が次の項目について肯定的な評価を行っている。

- 海外の文化や歴史への興味関心が広がった
- 語学力を高めたいと思うようになった
- 誰とでもコミュニケーションできる積極性を持ちたい
- 意欲や興味・関心の高まりは現在も継続している

全体として大きな成果が得られた。このことから、このような企画を行えば、かなりの成果が期待できるものといえるが、企画から事前指導、実施、事後指導等の全体にかける労力と経費がその成果に見合うものであるのかということが問題とな

る。最終的な判断はその時々の学校の状況にもよる。また参加した生徒が、この企画から得られた成果を、長い将来にわたって活かせるかにもかっているが、このことについては早急に答えがでるものでもない。直接的な効果のみならず、生徒の学習意欲全体への波及効果にも期待したい。社会のグローバル化が進む中、本校の掲げる女性リーダー育成でも、グローバルな取り組みが必要である。

北一女を訪問した際に、生徒の交流・教員の交流を中心にできる範囲で良いので交流協定を結びたいとのお申し出をいただいた。持ち帰って検討しますと、その場では返答し、帰国後、校内での検討、大学との相談を経て、協定締結の方向で校内で合意に至ることができた。現在取り交わす文面等の検討・調整を行っているところである。今回の研修旅行の成果の１つとして、永年の交流の積み重ねをこのような形で具体化することができ、また、今後も北一女との学校間交流を継続して行える基盤ができたことは、本校の国際交流にとっては前進である。

最後に今回の研修旅行を実施するにあたり、台北市立第一女子高級中学、国立台湾戯曲学院、後援いただいたＮＰＯ法人ベーシックライフインフォーメーション協会、強力な応援をいただいた台北駐日経済文化代表処、台湾観光協会、中華民国外交部、台湾日本人会・台北市日本商工会をはじめ関係の皆様に心からお礼申し上げます。（石井・菊池）

---

[i] 2012 年に行われたイオン１％クラブ主催の日中高校生交流事業の参加校となった際には、日本史、世界史、地理の担当教諭が参加者・希望者を対象に、夏休みに特別授業を行った。

[ii] 候補作品として、2.28 事件を扱った「非情城市」(1889 年、侯孝賢監督) のほか、「戯夢人生」(1993 年、侯孝賢監督)、霧社事件を扱った「セデック・バレ」(2011 年, ウェイ・ダーション監督) がある。

資料①

日程表

【最終】

お茶の水女子大学附属高校 台北 北一女親善訪問団 様

	月 日	都 市	交通機関	時 間	行程内容	備考
①	10/20 (日)	成田空港 桃園空港 桃園站 台北站	BR195 専用車 新幹線 (#660) 専用車	10:30発 13:05着 15:16発 15:36着 19:50頃	空路、台北へ (現地ガイドがお出迎え) 到着後、桃園站へ ①台湾新幹線乗車体験 《台北市内観光》 台湾初の原住民をテーマにした◎台湾原住民博物館(約45分) 台北を代表される宗教的建築○龍山寺 夕食:台湾料理をご賞味下さい。 ホテル着 台北泊: 国王大飯店 朝 ---- 昼 機内 夕 台湾料理 甲天下	
②	10/21 (月)	台北 九份	専用車	 08:00発 12:00-13:10 20:30頃	朝食後、台北市内観光へ 《台北市内観光》 世界4大博物館のひとつ◎故宮博物院(約120分)※トラベルイアホンを利用 衛兵交代式で有名な○忠烈祠(約35分) ■中華民国外交部主催 昼食会■ 真北平レストラン(中正紀念堂付近) 故蔣介石総統を称える殿堂○中正紀念堂(約40分) ☆台北民芸品店でお買い物と☆台湾お茶セミナー(試飲体験) ○二二八和平公園 散策 観光後、九份へ ノスタルジックな街並み○九份老街散策(約60分) 観光後、台北へ 夕食:台湾料理をご賞味下さい。 ホテル着 台北泊: 国王大飯店 朝 ホテル 昼 昼食会 真北平レストラン 夕 台湾料理 錦華楼	
③	10/22 (火)	台北	専用車	 08:30発 08:50-09:20 09:30頃	朝食後、南大門&台北第一女子高級中学へ 台北青果市場(南大門)へ ○台北青果市場 視察・散策 視察散策後、台北第一女子高級中学へ ■台北第一女子高級中学(旧北一女) 訪問 現地学生さんとご対面 ・総統府(入場)+台北貴賓館 ・歓迎セレモニー ・授業特別参加 昼食:「交流会」 ※現地生徒さんと一緒に食事 場所未定 ・課外活動参加 ・交歓会 終了後、各ホームスティー宅へ移動 台北泊: ホームスティー 朝 ホテル 昼 × 夕 ×	
④	10/23 (水)	台北	専用車	08:30発 10:00-11:00 12:30頃 14:00-17:00 20:20頃	■台北第一女子高級中学(旧北一女) 再集合■ 一路、新竹へ ②新竹サンエンスパーク(約60分) 一路、国立台湾戯曲学院へ 昼食:学院内で昼食 ③国立台湾戯曲学院(授業と学生によるショーを見学) 途中、☆免税品店でお買い物 夕食:台湾料理をご賞味下さい。 ホテル着 台北泊: 国王大飯店 朝 ホテル 昼 学食(ブッフェ) 国立戯曲学院 夕 台湾料理 城市商旅南東館	
⑤	10/24 (木)	台北 桃園空港 成田空港	専用車 BR196	 10:00発 10:30-11:30 14:50発 19:10着	*****出発時間まで自由行動***** ホテル発 ■台湾日本人会台北市日本工商会 表敬訪問 訪問後、空港へ 帰国の途へ 到着後、解散 お疲れ様でした! 朝 ホテル 昼 × 夕 ×	

上記日程は現地事情により変更が生じる場合がございます。ご了承ください。 ◎入場観光・○下車観光・△車窓見学

■利用予定ホテル(客室:ツイン利用) 国王大飯店利用

■添乗員は同行致しませんが、現地係員がお手伝い致します。

資料②

２０１３．７．５

生徒・保護者の皆様へ

お茶の水女子大学附属高等学校
校長　村田　容常

台湾・台北市立第一女子高級中学との交流事業参加者募集

かねて交流の希望があった台北市立第一女子高級中学から、台湾訪問および学校交流のお誘いがありました。以下の要領で交流事業を行います。参加を希望する生徒は7／１６（火）までに申込書を石井副校長まで提出して下さい。

目的　１．異文化理解を進め、国際人としての教養を高める。
　　２．アジア圏で日本との関わりの深い台湾の歴史、文化、自然について実地に学ぶ。
　　３．他国の女子校と学校交流を行う。

日程　２０１３年１０月２０（日）～２４日（木）４泊５日
　・日程案は別紙、一部変更の予定あり
　・１０月２２日（火）は台北市立第一女子高級中学での学校交流
　・１泊は生徒宅にホームステイの予定

参加生徒数　１０名～２０名

引率教員　石井朋子、菊池美千世

旅行費用　５５，０００円
　含まれるもの：往復の航空運賃、宿泊費、団体保険、現地での団体行動時の交通費・食費等
　含まれないもの：旅券取得に係わる費用、成田空港までの交通費、ホームステイ時の交通費、小遣い・おみやげ代等

応援　台北駐日経済文化代表処、台湾観光協会
後援　ＮＰＯ法人　ベーシックライフインフォーメーション協会

旅行業者　・産経旅行（Sankei　Global　Education）

台北市立第一女子高級中学（通称　北一女）
　・１９０４年創立、台北市のナンバーワン女子高等学校、
　・１学年約１０００名のマンモス校
　・１００％進学、台湾の有名校・日本を含む海外の大学に進学
　・2009.11に２０名が訪日来校学校交流、2010.11に石井副校長が訪問

その他　・北一女生徒とのコミュニケーション言語は基本的には英語
　・前後の学校行事
　　１０／１５（火）～１８（金）　２学期中間テスト
　　１０／３１（木）ダンスコンクール

注：なお、この件に関するお問い合わせは石井副校長までお願いいたします。

きりとりせん

「台北一女との交流事業」参加申込書

「台北一女との交流事業」に参加を希望します。

年　組　番　生徒氏名＿＿＿＿＿＿＿＿

保護者氏名＿＿＿＿＿＿＿＿　印

◎旅券の有無　2013年10月まで有効な旅券が　有り　無し
◎アレルギーの有無　食物や動物のアレルギーがある場合は具体的に記入して下さい。

（7月１６日（火）までに石井副校長に提出）

資料③

2013.7.19（石出）

台湾研修旅行に参加される皆さんへ

Formosa(フォルモサ)、美麗島、麗しの島、台湾。
台湾は小さな島ですが、複雑な歴史と豊かな文化を持っています。
この研修旅行で特に大切なことは、目的の１つが台湾の人々、高校生との交流であることです。
互いに知り合い、若い世代同士仲良くなりましょう。力を合わせ、楽しく実り多い研修旅行にしていきましょう。

1. 係分担
a. しおり作成　c. 交流企画　　d. 報告・報告集作成
以上とは別に、連絡係（ａ、ｂ、ｃと兼任。事前学習・レポート発表会を含む）
２年生各クラス１名、１年生学年から１名

2. 参加者メーリングリストで連絡が行きます。　着信に注意してください。

3. 事前学習(担当:石出、菊池)
①学校で　場所は社会科教室、映像・映画作品を見て学習します。
7/22(月)　13時～
以下は予定です。変更されることがあるので、メール連絡で確認してください。
7/23(火)　13時～
7/29(月)　9時半～
8/1(木)　9時半～
他の候補日：8/5(月)、6、7　午後(詳細な時間は未定)

②夏休み　各自がテーマを設定し、２学期のレポート発表を準備

③９月　「やさしい中国語講座」お茶大院生(交渉中)

④文化祭後　放課後レポート発表会

⑤参考図書、参考映画紹介　のちほどメールで連絡します。

なお、「東中野ポレポレ」で上映中の作品「台湾アイデンティティー」は、7/22に見る予定の映画「台湾人生」の続編です。高校生 1000 円、観賞後いろいろ語り合えるように、友人、ご家族と一緒に見に行くことをお勧めします。
東中野駅すぐ　10:20、12:20、14:50、17:00 より上映

連絡先アドレス　石井先生　ishii…　　菊池先生　kikuchi…　　石出　　ishide…

資料④

台湾研修旅行　　係分担、レポート発表

		係　分　担	レポート発表 9/11（水）昼休み	レポート発表 9/13（金）昼休み
1	3年	◆		「台湾でびっくりしないために」①
2	2年	交流・交流会　★　ピアノ伴奏	「なぜ台湾は親日に?」 6	
3		◆　報告・報告集	「台湾の経済発展」 4	
4		しおり作成	「日本の台湾統治」 ⑦	
5		交流・交流会	「台湾語について」 ②	
6		しおり作成　★	「言語はどこから」 ③	
7		◆　しおり作成	「なぜ親日家が多いのか?」 ⑧	
8		報告・報告集		「台湾の果物」 ②
9		報告・報告集	「台湾から見た日本」 ⑨	
10		交流・交流会		③
11		報告・報告集		「台湾の若者文化　ファッション、漫画、アニメ」 ④
12		報告・報告集　★		「台湾のお茶」⑤
13				「少数民族について」 ⑥
14		交流・交流会	「台湾を知ろう(基礎情報)」 ①	
15		交流・交流会	「台湾に残る日本時代」 ⑩	
16		◆　しおり作成	「東日本大震災における台湾の支援について」 ⑪	
17	1年	交流・交流会		「台湾の伝統文化」 ⑦
18		報告・報告集 ピアノ伴奏	「台湾の物価」 ⑤	
19		しおり作成		「ロックバンド五月天」 ⑧
20		報告・報告集		「台湾の祭」 ⑨
21		交流・交流会		「台湾の習慣とマナー」 ⑩
22		◆　しおり作成		「京劇辞典!!!」 ⑪

◆ 連絡係　　＜テーマの後の丸数字は発表順です。＞
（事前学習、レポート発表係）
★ 係長

資料⑤

2013.9.3（石出）

台湾研修旅行に参加される皆さんへ

Formosa(フォルモサ)、美麗島、麗しの島、台湾。
台湾は小さな島ですが、複雑な歴史と豊かな文化を持っています。
この研修旅行で特に大切なことは、目的の１つが台湾の人々、高校生との交流であることです。
互いに知り合い、若い世代同士仲良くなりましょう。力を合わせ、楽しく実り多い研修旅行にしていきましょう。

◎９月になりました。事前学習を進めます。研修旅行に希望し参加する皆さんが、できるだけ自主的に進めましょう。自主自律。必要なサポートはもちろんしていきます。

〈事前学習〉

① 学校で(担当:石出)　場所は社会科教室、映像・映画作品を見て学習します。
7/22(月)　13時～　→終了
7/23(火)　13時～　→終了　欠席者には資料配布。

②夏休み　各自がテーマを設定し、二学期のレポート発表を準備
明日、石出まで提出。　発表用のレジュメ(Ｂ４、１枚程度)でよい。

③「やさしい中国語（北京語）講座」（交渉中）
文化祭終了後、放課後１、２回レッスンする予定です。

④文化祭終了後は…　（しかし中間テスト前なので、今から始めてもよいです。）
A. レポート発表会(放課後)
発表会の運営
B. しおり作成
構成を考え、原稿作成、印刷、製本　生徒 22×2(本人/家庭用)+2×2(引率者)+5=53 部
C. 交流（会）企画
どのように、どのような交流をするか、したいか、するべきか。
学校訪問での交流会での出し物の企画・検討、練習の計画・実行
D. 報告・報告集作成
どのような形で記録。報告するか。どのように、いつ、報告するか、検討・実行

資料⑥

2013.9.19(石出)

< 台湾研修旅行　今後の予定 >

1. 保護者への説明会　文化祭２日め　…9/22(日)
2. 張瑞銘先生による歌レッスン(楽譜持参のこと)　…9/26(木)放課後３時半より　場所未定
3. 王湘榕さんによる中国語会話レッスン第１回　…9/30(月)15:15～、社会科教室
4. 映像で見る日本統治時代の台湾　…10/1(火)　12：35から。社会科教室

忙しい毎日です。各人、各班があらかじめ予定を立て、把握しておくために、表を作りました。各係で日程や計画を決めたら、係長は石出まで連絡してください。

◆交流班は出し物の練習の他、英語による本校紹介の準備も進めてください。
(STOCK リーグの NY 研修の学校交流では、授業、部活、学校行事…など５人で分担しました。)
もし大変でしたら、今のところは仕事のない「報告班」に手伝ってもらってください。

◆しおり班はしおりの作成を。部屋割りとステイ先一覧も入れてください。

◆下の日程の空いているところには、交流の練習や各班の作業が入ると思います。係内で、また各係相互に連絡を取り合って、日程を決めてください。

9/2（月)) 始業式	3（火）	4（水）昼休み 連絡会	5（木）	6（金）	7（土）	8（日）
9	10	11　昼休み レポート発表会	12	13　昼休み レポート発表会	14	15
16 敬老の日	17	18　昼休み レポート発表会	19　午後 文化祭準備	20　全日 文化祭準備	21　文化祭	22　文化祭 保護者説明会
23 片付け	24 代休	25 代休	26　3:30 歌レッスン	27	28	29
30　3:15 会話レッスン	10/1　昼 ＤＶＤ鑑賞	2　3:15 会話レッスン	3	4	5	6
7	8　昼休み 連絡会	9	10	11	12　昼休み しおり配布	13
10/14(月) 体育の日	15(火) 中間テスト	16(水) 中間テスト	17(木) 中間テスト	18(金) 中間テスト	19(土)	20(日)出発 台北泊
21 台北泊	22 台北泊	23 ホームステイ	24 帰国			

日本の台湾統治

○日本戦時体制下の台湾

- 1895年4月17日　日清講和条約調印
  6月17日　初代台湾総督・樺山資紀が台北で始政式を執り行う

- 1931年9月　満州事変
  1932年3月　満州国建国
  1933年3月　日本の国際連盟脱退
  1936年9月　小林躋造を台湾総督に起用
  1937年7月　盧溝橋事件
  1941年12月　太平洋戦争勃発

台湾人の「皇民化」、台湾産業の「工業化」、台湾を東南アジア進出の基地とする「南進基地化」を表明

↑
日清講和条約調印後日本が獲した台湾と澎湖諸島を接収する旨の「命令」

○皇民化運動

「皇国精神の徹底を図り、普通教育を振興し、言語風俗を匡励して忠良なる帝国臣民たるの素地を培養」（『台湾』引用）

- 新聞の漢文欄の廃止
- 日本語の使用の推進
- 寺や廟の偶像の撤廃
- 神社参拝の強制
- 台湾の習慣による儀式の廃止

台湾の伝統文化の破壊

台湾に残る教育勅語→

↑
「国民精神」を涵養するための大東亜聖殿

- 1940年10月　「大政翼賛会」発足
  →台湾総督府は「皇民奉公会」を設立

皇民奉公会は大政翼賛の政治体制の強化と、台湾人の同化を推進する皇民化の、二つの目的の達成をめざしていた

○戦争と台湾人

- 1942年4月
  「陸軍特別志願兵」徴兵開始
  約6000余名のうち原住民の約1200余名で「高砂義勇隊」編成

- 1943年8月～
  約3000余名が「海軍特別志願兵」に

- 1944年5月～
  約2000余名を海兵団に採入

前線に送く台湾人の「志願兵」

- 1944年9月　徴兵制施行　約22000余名を徴集

- 戦争に駆り出された台湾人の算人　80433名
- 軍属と軍夫　126750名
  計　207183名

- 戦死および病死者　30304名
  （厚生省援護局）

7人に1人の高確率!!また、終戦時の台湾人口（約600万人）のほぼ200人に1人！

日本会はて

○敗戦と在台湾の日本人

- 1945年8月15日　終戦
  ⇓
  日本人のひきあげ開始～終戦当時の在台湾の日本人はおよそ488000余人
  （うち、166000余人が算人）

- 1946年4月20日　日本人の引き揚げ完了
  →しかし、国民党政権が必要とする技術者や教師など、28000人弱が「留用者」として残った。

- 1946年4月13日　最後の台湾総督安藤利吉逮捕（戦犯として）
  5月31日　勅令により台湾総督府を廃止

引き揚げ者が持って帰れる物

- 現金1000円
- 途次の食糧
- リュックサック
  二組分の必需品

○参考文献

- 台湾に生きている「日本」　片倉佳史著　祥伝社　2009.3.5 初版第1刷発行
- 台湾　四百年の歴史と展望　伊藤潔著　中央公論新社　1993.8.25 初版発行
- 観光コースでない台湾　歩いて見る歴史と風土　片倉佳史著　株式会社 高文研　2005.7.1 第1刷発行

資料⑧

「台湾アイデンティティー」をみて
台湾原住民として、日本人として、台湾人として生きる人

1.はじめに

近くて遠い国、という言い方を耳にすることがよくある。地理的には近いのに、その関係は難しい、という意味だろうか。沖縄の南隣、九州より少し小さい台湾島を中心に2300万人の人が住む台湾。日本政府による日台の基本的枠組みは「非政府間の実務的関係」にとどまる。140万人以上の人が互いに行き来する関係でありながら、日台間には国交が結ばれていないからだ。私たちは台湾について、どのくらいのことを知っているのか。東中野ポレポレで上映されている酒井充子監督「台湾アイデンティティー」を見に行くことにした。

2.「台湾アイデンティティー」

7月某日、東中野駅に降り立つ。暑い。映画館東中野ポレポレは、駅を出てすぐのビルの地下にあった。地下特有のこもった匂いの中、席に着くと、100くらいの座席にすでに30～40人ほどのお客さんがいた。見たところやはり中高年が多そうだが、若い人もいる。でも今のところ自分が最年少だなと思っているうちに映画が始まった。

これはドキュメンタリー映画で、台湾で生まれ、日本統治下で日本語の教育を受け、その後も困難な人生を歩んだ人々を追った作品だ。映画は、にぎやかな音楽が流れる中、色とりどりの民族衣装を着て踊る台湾の先住民の人々の映像から始まる。

初めに登場する女性は、幼少時代を庭のある大きな家で育ち、ピアノを習うなど不自由のない暮らしをしていたが、戦後は、父親が逮捕、処刑され自分も当局に尋問される日が続く。台湾では人数が比較的多いツオウ族に生まれた彼女は、台湾名、日本名、ツオウ族名、と3つの名前を持つ。80歳を超え少し辛そう息をしながら流暢に日本語を話す姿を見ていると、台湾の先住民であることは、見た目からは分かりにくいほどだ。話される日本語は、今の私たちが日常使うようなイントネーションとは異なる。古き、良きというのか、ゆっくりとした丁寧な語り口は祖父母の世代の日本語そのままがあるように思えた。

カメラは、台湾、日本、インドネシアにいる、幼少期「日本人」として生きた人々を追う。中には、日本に来た後そのまま残りビジネスで成功した人、台湾で日本語を生かした仕事をする人、その後の人生はさまざまである。しかし、私が最も心を打たれた場面は、取材の最中、涙ぐむスタッフに対し、ツオウ族出身の男性が「泣かないでよ、これは私の運命だから。」というところだ。日本式の教育を受け、終戦後も様々な困難に直面した人々が、淡々と過去について語ることができるのは、何十年もたったからなのか、と思っていた。しかし、「泣かないでよ、運命だから、泣かないでよ」と繰り返す老人の目にも涙がひかるとき、時の流れでも決して解決することはない深い悲しみがあることを知った。

3.終わりに

はじめは台湾に関する作品で7月初めに公開が始まったばかり、という軽い気持ちで選んだ映画だった。しかし、台湾に生まれ、日本式の教育を受け、戦後はさまざまな困難とともに生きた人々の姿を見て、少なからず衝撃を受けた。私たちの世代は、戦争について、歴史の1ページとして受け止めがちだ。しかし、戦争を体験した人は確実に少なくなっていく。もう何年かするとこのようなドキュメンタリーさえ制作することが困難になるほど、証言できる人は減っているかもしれない。現在の日台関係は様々な人々の苦労や犠牲、喜びや悲しみの後に築かれていることをもっと知らなくてはいけないと思った。

参考：「世界の地理　中国・台湾・香港」朝倉書店
「世界国勢図会 2012-2013」矢野恒太記念会
外務省HP　www.mofa.go.jp

台湾の若者文化
サブカルチャー

〈ファッション〉

1. 台湾のファッション作品

- ●海外ブランドの輸入品
- ・伝統を重んじるデザイナーの作品
- ●若い世代のデザイナーの作品
- ●海外製品のアレンジ品

2. 若者の間でのファッション

＊海外ブランド（Ex. 日本、アメリカ、ヨーロッパ）
・高価　・高品質

＊若いデザイナーの作品
・高価（12,000円～55,000円）

台湾の平均年収：150万円

◆台湾デザイナー事情◆
デザイナー養成機関不足
↓
政府による人事養成計画

ファッション会社入社 or 自費

作品をブティックなどに陳列
↓
店に手数料を払い売上金が入ってくる。

＊アレンジ品
・安価　・大量生産
・若者の間で最も流行

←ネット通販のトップページ

〈マンガ・アニメ〉

哈日族（ハーリーズー）：日本文化（アニメ、マンガ、ドラマ、音楽etc.）に熱中する台湾の若者たち。

1. 台湾のマンガ・アニメ事情

・日本のマンガ・アニメは1～2週遅れで翻訳出版
・台湾のマンガ・アニメの7～9割は日本製

2. ここまで浸透した理由

・机器猫＝ドラえもん
・接触　＝タッチ
・樱桃的小丸子＝ちびまる子ちゃん

蔣介石　恐怖政治・厳しい戒厳令
→ 日本マンガの海賊版天国
→ 品質は良くなく、格安 ⇒ 若者を中心に広まる
↓
蔣経国　台湾人のマンガ家ブーム
→ 作風が日本と酷似…？　⇒ 1987年 戒厳令解除
↓
李登輝　本格的な民主化
→ 日本のマンガ・アニメが正規ルートで輸入
→ 台湾マンガの急速な衰退　⇒ 1994年 日本のテレビ番組全面解禁

3.「親日」は絶対か

・海外「アニメやマンガは子供用」
・日本「大人が鑑賞してもメッセージを受け取れる」→ 歴史背景・価値観に差が…
⇒ 日本のマンガ・アニメ文化が必ずしも受け入れられているわけではない
⇒「台湾の若者＝親日」という決めつけは正しいのか。

資料⑩　ホームステイと国立台湾戯曲学院の記録

私は台北一女との交流において Judy という女の子にホームステイをさせていただいた。彼女が同様の交流プログラムに参加するのは3回目。事前にSNSで話をしていたこともあり、すぐに仲良くなれた。Judy は両親と兄の4人家族だが、お兄さんは高雄の大学（台湾でトップ4）へ通っているため、一緒には住んでいない。Judy の両親は共働きで帰宅は23時過ぎと遅いため、夕食は1人で食べるか、友人とナイトマーケットで食べることが多いようだ。

私たちは台北一女でのプログラム終了後、地下鉄でナイトマーケットに食事がてら遊びに行った。台湾の地下鉄は「スイカ」のような仕組みに加え、タッチ式のコイン（切符の役割）を利用するなど日本とは異なっていた。ナイトマーケットには多種多様な店があり、食事だけではなく雑貨、衣服などの店も多く、時間が遅くなるにつれ賑わっていた。しかし突然の雨に、私たちは食事を済ませたらすぐに彼女の家に移動した。台湾では突発的な雨が日常茶飯事であり、Judy は傘もささずにのんびりしていたのが印象的だった。

お父さんが帰宅した、3人で23時過ぎまで時間を忘れて話し込み、その後も深夜まで同じベッドに入り、尽きることなく話した。「私たちが一緒に過ごせるのは24時間もないんだよ！」を決まり文句に、3時過ぎまで話し込んだ。ジェンダーギャップ、教育制度、英語教育については日台を比較し、その問題に対する考えをお互いに話した。また、彼女はドイツとフランスに、私はイギリスとアメリカに行った時に感じたことを共有したりもした。中でも一番話し込んだのは「恋話」！台湾と日本の女子校の恋愛事情に差があり、非常に面白かった。そして朝は朝食を購入後バスにて登校。家から学校までは20分程であった。彼女と過ごした時間は常に考え、学び、驚き、そしてよく笑った。このような充実した交流ができたのは台湾のトップスクールである台北一女であったからだと思う。彼女の知識や考えに、話すたびに刺激を受け、今も鼓舞されるような気がする。このような素敵な出会いに心から感謝したい。

↑3時まで女子会

↑Judyと♪

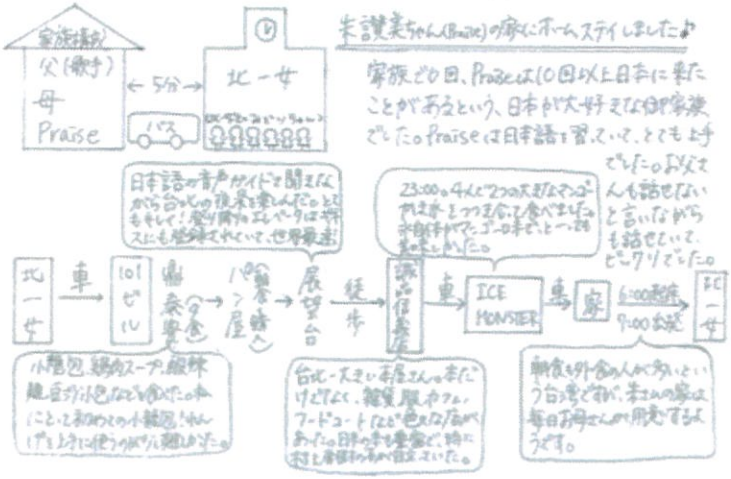
↑台北一女での数学の授業後の一コマ

士林駅から淡水線で忠孝復興駅、板南線に乗り換えて一駅で科学の最寄りである中山國小駅に着いた。比較的すいていた。彼女のお父さんが車で迎えに来てくれた。士林よりは小さい教室を振りかえるとすぐ寝に着いた。一つの建物にたくさんの世帯が住むアパートのような感じで、彼女の家は3階にあったが、中にエレベーターがあったので、かなり楽だった。私専用の部屋とバスルームを提供してくれた。（とても嬉しい。）

彼女の家族構成はお父さん、お母さん、姉妹（私）、弟の柳辰くんであった。柳辰くんは高1で、日本語を驚くほど勉強していて、とても上手だった。動詞が難しいんだ。と言っていた。お父さん、お母さん共に旅行が好きなようで、ヨーロッパ旅行に毎年行っていた。

年末に行ったので、今年の夏は Kaeiを除いた3人で北海道に行ったそうだ。東京のこともとても詳しかった。柳辰くんが好きなため、コナンのマンガがあったり、Kaeiが好きなジブリグッズがたくさんあった。ピアノがあったので弾いてと頼んだら、千と千尋の神隠しを素晴らしい演奏で披露してくれた。彼女は遅くまで起きていて（私は寝てしまったが）とてもかわいいメッセージカードを作ってくれ、次の日プレゼントしてくれた。

また、私は電子辞書を忘れてきてしまい、お母さんと彼女とビーフンまで届けてくれた。迷惑をかけてしまって申し訳ないけれど、もう一度2人に会えて嬉しかった。



家族構成は、父・母・妹の4人家族。妹は、小学生。
普段は、学校から家までバスで帰っている。バスはとても日本にそっくりで座席構成もほぼ同じ。しかし、道路が凹凸があるのか、とても揺れていました。

張泥鈞 Wan-Chun Chang Julia♡
16歳：台北一女高級中学1年

※事前学習でもあったように台湾ではバスの中では飲食禁止。

［活動内容］

夕食は101タワーにある大きな中華料理屋さんで小籠包や台湾で有名な激辛ラーメンをごちそうになった。

［夜市］

日本にはない台湾名物の市場に連れてきてもらってもらった。鳥の足のいためものや豚の血煮など見たこともない料理を売っていておどろいた。

台湾ではー般的に食事は外食がふつうのようで朝食も屋台のお店で台湾で朝食の定番であるおにぎりをサンドしたサンドイッチを食べた。ホームステイでは実際の生活を体験できた。

台北一女、そしてホームステイ

台北一女では、様々な体験をした。その中で最も印象に残ったのは授業体験である。一女のせいとたくさん話ができたし、たくさん文化の違いを感じたし、学ぶということへの意識の違いを感じた。一女の生徒たちとの会話の中では、日本人も言語を学ぶことが重要視されているイメージが強かった。彼女たちは、北京語以外に、英・スペイン・フランス・ドイツ・イタリア・日本語等を学ぶ機会が学校にもうけられている。実際に学校では学んでいないが興味があるからという理由で、多数学っていくつもの言語を学んでいる子もいた。

また多くの子が親日派で、日本のサブカルチャーに興味があることがわかった。日本にイタってみたい、という子が多く、マンガ部、Japanese Culture部などがあり、私たちより日本のことをよく知っていた。

ホームステイでは、夜市につれていってもらった。夜市に台湾の人にとっても重要なものであるようだ。海鮮料理が多い有名な夜市に連れていってもらったが、さんざんな食べ物も多くの小規模な夜市があった。また、日用品なども多く出店していた。どうやらそこにサイズも売られていて、「日本のどらやきは、これの倍くらいあるんだよ。」とホームステイ先のママさんに言うと、非常に驚いて喜んでいた。

ホームステイ先では台湾の文化を多く学びました。私が驚いたのは、家で料理をしないことだ。聞いたところ、近所の朝食屋さんで朝食を買って学校に行くらしい。家では、フルーツを切る程しかせずもったいないと思っていた。もう一つ驚いたことは、朝のおいのりである。おばあちゃんが早くにおきて長い線香を持ってお経(?)をとなえながらおいのりをしていた。

国立台湾戯曲学院

事前学習で京劇を調べたこともあり、台湾戯曲学院への訪問は、私の中で楽しみの一つであった。ここの生徒たちは、10歳で入学し、それから約12年かけてプロになるための訓練をするということにとても驚いた。ここでは、なんともありがたいことに京劇の特徴である化粧を体験させてもらう機会を設けてもらい、私は貴妃という役に変身した。顔の半分以上は自分でメイクするという想像振りもあったが、なんとか成功できて良かった。京劇は化粧の様子などからして歌舞伎に似ているのだと思っていたが、実際見てみるとそうでもなかった。決定的な違いは歌を歌っていること。京劇は「オペラ」という言葉がしっくりくる感じがする。日本ではなかなか感じられない異文化に触れられたことに感謝でいっぱいだった。

資料⑪

成田空港出発

台湾新幹線

中華民国外交部主催昼食会

九份にて

台北一女にて

記念撮影台北賓館にて

交流セレモニー・記念品交換

英語の授業

数学の授業

温 組のＨＲ

クラブ活動

お茶高紹介のプレゼンテーション

台湾戯曲学院　京劇のメイク

台湾戯曲学院　京劇鑑賞後の記念撮影

台湾戯曲学院の中庭にて

台北商工会にて

2013 台湾研修旅行 個人報告書 ②　　2年　組　番 氏名

今回私がこの台湾研修旅行に参加して、とても驚いたのは、台湾の人たちがとても積極的だということです。台北一女では、特にそれを感じました。授業に参加する体験のときも、皆積極的で、先生の言っていることがわからない私に英語で教えてくれて嬉しかったです。台北一女の人たちは英語が上手で、しかも第二外国語の学習を高校生のうちから始めていて、日本よりもグローバル化が進んでいると感じました。放課後には日本文化クラブに参加し、交流の一環としてゲームをしました。その日本文化クラブの人たちとも連絡先を交換し、驚いたのは彼女たちのほぼ全員がLINEやFacebookをやっている事です。日本人会を訪れた際も「台湾は人口に対してFacebookの利用人口の割合が世界一だ」と聞き、本当に世界に手をのばしていると感じました。
また、その意欲の強さは科学の分野においても通ずるものがある、と新竹サイエンスパークを見学して思いました。そこでは、特許こそ取らなかったものの結果として世界に広まった可愛いデザインの信号機や、ウルトラブック等に使われる薄いパソコン用の液晶部分など、台湾には世界に胸を張れる製品が数多くあることを学びました。私はそれらの製品から、日本に、ひいては世界に追いつき追い越せといった意欲的な姿勢を感じました。けれどそれらのほとんど全ては世界に出ると「台湾製」でなく「中国製」と表記されてしまうのだと聞き、改めて世界における台湾の立ち位置について考えさせられました。
今回台湾へ行き様々な人と触れ合い私が感じたことは、彼らのアイデンティティーは「中国人」ではなく「台湾人」だということです。私は一日本人として、彼らを「二度見捨てる」様な真似はしたくないと思いました。今後の国際情勢において日本が台湾に対してどのような態度を取るべきであるのか具体的にはわかりませんが、今回のような交流は今後も是非続けて欲しいです。
少なくとも私にとって今回の研修旅行はとても良い経験になりましたし、参加できた事を嬉しく思います。本当にありがとうございました！

2013 台湾研修旅行 個人報告書 ②　　2年　組　番 氏名

今回の台湾研修旅行を通して、私は経験をするということの大切さを改めて痛感した。その最大の要因となったのは、台湾の高校生との交流だろう。私は今回初めて海外の高校生と関わったのだが、文字通り、目が覚めるような思いがした。特、台北一女との交流では彼女たちの「意識の高さ」に圧倒された。彼女たちは非常に積極的でコミュニケーション能力や自己表現能力も高い。教室で授業を受けたり、レクリエーションや部活動に参加したりしているときはもちろん、廊下や校庭を見学しているときでさえ、多くの生徒が話しかけてくれ、また日本に興味をもってくれた。またレクリエーションをしたクラスの生徒やホームステイ先でも、将来の夢を聞かれた。そして授業には、意欲的に参加し、授業中の発言数は私たちのそれとは比べものにならなかった。これらの事実は彼女たちの外界に対する好奇心や探究心、向上心の強さを如実に現しているだろう。また、彼女たちのこうした姿勢は多くの人々から認められ、期待され、そして羨望の的となっていた。特に、2日目の外交部との昼食会の際、台北一女生について熱心に語る外交部の方々を見て、彼女たちにかけられている期待の大きさもうかがい知れた。
その他、新竹高校の生徒との交流も、私に大きな衝撃を与えた。私と同年代、それより年下の子どもたちが、その人生をかけて、京都帝国大学になるための厳しい修練に励み、日々研鑽を繰り返している。その覚悟と姿勢に深く感銘を受けた。その夜の結晶であるアクロバットショーを見たとき、もっと多くの人にこのことを知ってもらいたいと思った。そしてここでも再び、彼(彼女)らのコミュニケーション能力の高さに驚かされた。彼(彼女)らは英語が話せないため、言葉での意思疎通は難しいだろうにも関わらず、ジェスチャーや漢字での筆談などにより、積極的に私たちに語りかけ、また私たちを知ろうとしてくれた。「日本人は自分の意見を述べるのが苦手」「コミュニケーション能力が低い」と言われる由縁を身をもって体験した瞬間だと思う。経験することの重要性は、高校生との交流だけでなく日々の些細な出来事からも感じた。町中の黄色いタクシーや勇ましいバイク、日本の昭和を彷彿させるネオンサインは、「台湾の日常」を教えてくれた。活気溢れる夜市や市場からは「台湾人のたくましさ」を感じた。全ては経験したからこそ手に入れたもので、だからこそ何一つ無駄にはできない。日本からわずか3時間の海上に浮かぶ小さな島には、こんなにも素敵な人々が、独自の文化のもと、懸命に生きているという事実を私はもっと日本人に知ってほしい。彼らの考え、信念などにも目を向けてほしい。何より私自身が、彼らを更に深く知り、台湾を更に好きになりたい。そう思わせてくれたのは、やはり「経験」の力だと言えるだろう。

資料⑬　　2013.11

＿＿＿ 年 ＿＿＿ 組　氏名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

台北研修旅行(2013年10/19～10/24) 事前学習・準備・行程についてのアンケート

1　事前学習について（参加２２名中、それぞれ回答した人数を示す）

		とても役に立った	まあまあ役立った	あまり役立たなかった	役に立たなかった	参加していない
7/19	台北駐日経済文化代表処のスピーチと台湾紹介ＤＶＤ	１２	7			3
7/22	「台湾人生」鑑賞	１０	2			１０
7/23	「冬冬の夏休み」鑑賞	1	7	2		１２
10/1	「南進台湾」鑑賞	１１	6			4
	夏休みの台湾レポート作成	１７	5			
9/11, 13, 18	夏休みレポートの発表会	２０	2			
9/26	中国語の歌練習（張 先生）	１４	4	2		2
9/30, 10/2	中国語の会話練習（王 先生）	5	7	9		

2　学校での事前学習・準備の他に、自分で行った準備や学習があれば記してください。

・台湾の歴史についての本を図書館で借りて読んだ。
・台湾について少し本を読みました。
・司馬遼太郎の「台湾紀行」を読んだ。
・本「台湾人生」、映画「台湾アイデンティティ」
・新聞で台湾に関することがあれば読むようにした。
・テレビで台湾に関する番組があったので視聴した。
・父（台湾に数回行っている）から話を聞いた。２
・見学場所の歴史や背景について学んだ。
・ガイドブックを買い、気候や、現地の様子を調べた。
・ガイドブックやネットで行く予定になっている観光地を調べた。
・インターネットで人気の観光地をチェックした。
・ホームステイ先の女の子がどんなものが好きか聞いた。
・相手のTwitterプロフィールやフォローしているアカウントを参考におみやげを決めた。

3　来年度以降の参加者が、どのような事前準備や学習をしたらよいか、助言してください。
（持ち物、おみやげ、健康管理などについての助言もどうぞ）

・英会話の勉強　２
・中国語をもう少し話せるようにしていけば良かったと思う。
・歴史学習をしっかりしておいた方がより深く見学できると思う。英語は現地の学生との交流で、学習しておいた方がよい。
・日本統治時代の台湾のことや、現地の人のそれに対する考え方などをいろいろな観点で調べていくべき。
・日本と台湾についての歴史的な背景について学ぶことはもちろん、私たちが十分に調べていなかった産業・経済の面についても調べた方がいい。
・訪問場所についてもっと勉強してから行った方が、より理解が深まったと思う。(今回でいうと、蔣介石についてや、台湾の兵役についてなど)
・行き先について事前に調べる人がいると助かると思います。
・行く場所などに関する調査がもう少しした方が良かったと思う。
・旅行先と日本の関係や交通ルールなどはよく調べておいて良かった。
・現地の気候や気温
・行くところの位置を知る（何がどこにあるか‥‥）→自分がどこで何をしているかわかる。
・持ち物一覧を早めに出した方がいい。
・冷房がきつい場合があるので、上着が必要

・同じ時期に行くなら結構暖かいので防寒対策はいりません。
・筆談できるものをもっていくといいかもしれません。
・食べ物は毎日食べ続けると最後まで持たないかも　‥‥。
・貴重品を持ち歩く用バッグ　2
・トイレは日本と異なるので注意！！2
・お腹を下すかもしれないため、薬を持って行った方がよい。
・持ち物については、とにかくポケットティッシュをたくさん持って行く。
・おみやげは事前にほしいものがあれば大体の値段を知っておくとよいと思う。場所によって値段がとても変わります。
・相手の喜ぶおみやげを持って行ってあげると良いです。日本らしいものは以外と台湾に売っていたりするので、サブカルチャー商品は喜ばれます。
・おみやげは家族向けにお菓子も持って行くようにすると伝えてあげる。
・基本的にお菓子系は日本で売っているのがそのまま売っている感じ。2　和柄のシュシュとか、文具、自分らしいものがいい。あまり「日本らしい」ていっても大体台湾にある。
・おみやげは日本にしかないものや、日本らしいものが喜ばれると思います。2
・おみやげは折り紙など一緒にできてコミュニケーションにもつながるものがいいと思う。
・おみやげは日本特有のおもちゃ（私は和風船とだるま落としを持って行きました）があれば、その説明をするときに会話ができる上にとても盛り上がる。

4　現地のガイドの案内・説明のわかりやすさについて

①わかりやすかった　②まあまあわかりやすかった　③ややわかりにくかった　④わかりにくかった
１８　　4

5　現地のガイド（呂さん）の案内・説明の内容や分量（説明時間、内容の広さ・深さ）について

①十分であった　②まあまあであった　③やや不足だった　④全く不足だった
１８　　4

6　今回はＮＰＯなどの援助を受けられたので５．５万円の旅費で参加者を募集しましたが、もっと高い旅費でも参加を希望しましたか。

①いいえ　6　　②はい　１５　⇒　いくらまでなら希望したと思いますか？
保護者とも相談して答えてください。　①６万円　②７万円　③８万円　④９万円　⑤10 万円
2　　5　　6　　2

7　実施時期を変更するとしたら、どの時期に実施するのが望ましいですか？（複数回答可）

①夏休み（７月）　②夏休み（８月上旬）　③夏休み（８月下旬）　④冬休み（12 月）
9　　１０　　7　　7
⑤冬休み（１月）　⑥６月上旬　⑦７月中旬　⑧10 月下旬　⑨11 月上旬　⑩２月上旬
4　　2　　3　　5　　7　　1

8　個人や家族での旅行とは異なる、学校が主催する海外研修旅行の意義はどこにあると思いますか。

・学校同士の交流、家族旅行では聞けない台湾についての話
・北一女の生徒と交流できたことがとても大きかったです。
・学校間・高校生同士の交流ができる点　5
・観光客とは違う観点でその国を回れること　2
・現地の人と交流できる。
・自分の語学力を知ることができる。
・個人では行けないところに行ける。
・「お嬢様」という名の下に様々なスペシャルな体験ができる。
・友人と何を感じたか話すことができた。意見交換ができる。
・観光地（＝きれいな部分）以外の、町並みや人々の生活、意見にふれることができる。
・友達と助け合える、友情が深まる。
・経験に対する意見が言い合える。
・「学ぶ」という意識がより高くなります。
・旅行では立ち入れない場所や、なかなか会うことのできない方々とお話しする機会ができたこと。
・個人や家族での旅行は多くの場合、あまり下調べをせずに行って、異国間を楽しむ旅行になってしまいますが、今回のように、事前学習をして、それを共有して旅行することによって、自分なりにただの観光とは違う目的を持って観光できるし、ガイドさんの話をよく理解することができると思う。

・学校の研修ということで遊びとは異なる学ぶものや知識が増え、普段体験できないことが体験できる。
・ホームステイや、より多くの学生と交流できる。
・学校の代表として現地の生徒と交流し、体験したことを学校の友人や周りの人に伝えることができるところ
・楽しいだけでなく、学習もできる。他の学年の人と交流できる。
・台北一女との交流、家族旅行ではできないことなので、意義があると思った。
・よく知らない土地の上で、今までそんなに関わったことがない人ともいやでも協力していかないと行けないことで、結果的に団結感が生まれ、絆も生まれる。

9　しおり、交流、報告の３つの班を作りましたが、仕事の内容、分担（班分け）、各班の人数配分などは適切でしたか。気付いたことがあれば記してください。

・適切だと思います。１０
・どの係にも当てはまらない仕事があった気がします。
・長ばかりに仕事が回ってきたり、最が多かったりした，自分もその係だという意識をもっとしっかりつけるべき。
・適切だったと思うが、長の負担が重かったと思う。
・報告班は人数的にもちょうど良いと思う。
・交流係が旅行中に大変そうだった。
・とてもわかりやすかったし、仕事もしやすかったです。
・しおり、交流、報告の３つの分担でいいと思った。しかし、交流には今回ほどの人数は必要ないと思う、（３～４人程度）

10　見学・訪問場所と滞在時間について（参加２２名中、それぞれ回答した人数を示す）

		見学・訪問場所としての評価				滞在時間に関する評価			
		とても良かった	まあまあ良かった	あまり良くなかった	良くなかった	長過ぎた	ちょうど良かった	やや足りなかった	全く足りなかった
10/20	台湾新幹線	１４	6	1			１６	5	
	原住民博物館	１１	１１			3	１６	3	
	龍山寺	２０	2				１０	１２	
10/21	故宮博物院	２２				2	6	4	4
	忠烈祠　衛兵交代	２０	2				２２		
	中華民国外交部（亜東関係協会）主催 昼食会	１８	4			1	２０	1	
	台北民芸品店 お茶セミナーと買物	4	１１	4	3	1	１５	6	
	二二八和平公園（車窓）	2	１４	2			9	4	8
	九份老街散策	２２					7	１２	3
1022	台北青果市場（南大門）	9	１２	1		2	１８	2	
	総統府	２０	2			1	１５	6	
	台北貴賓館	１５	5	1		3	１７	2	
	台北第一女子高級中学	２２					１１	8	3
	ホームステイ	２１					１０	8	3
10/23	新竹サイエンスパーク	１３	8	1		4	１６	1	
	国立台湾戯曲学院	２１	1			1	１４	7	
	免税品店	4	9	8	1	5	１５	1	
10/24	台湾日本人会 台北市日本商工会	２１	1			1	１９	2	

11　来年度以降も海外研修旅行がある場合、行程（研修場所、時間配分、訪問の順番、など）について、こうした方が良いという意見があれば、記してください。

・現地の学生との交流は是非組み込むべきだと思います。
・現地の学校との交流は入れるべきだと思う。もう少し長くてもいいと思う。
・博物館も楽しかったのですが、やはり現地の人との交流が有意義だと感じたので、もっと交流の時間がほしかったです。
・ホームステイの滞在時間をもう少し長くすれば、ホームステイ先の子供家族ともっと親密になれたと思うし、台湾の文化を満喫できたと思う。
・故宮博物院などもっと時間がほしかった。北一女ではもっと色んな授業を見学してみたかった。でも限られた時間の中で、たくさんの処を訪れることができて良かった。
・故宮博物院と九份をもっと長くした方がいいと思います。
・故宮博物院や総統府などなかなか行けない場所だったので、もう少し自由に回れる時間があった方がよいと思いました。
・二二八和平公園にも車窓だけではなく降車して見学した方が良かったと思う。
・多く行くより、１つをしっかり見て学べるようにするべき。
・予定だった場所すべてに行けるように、はじめから行く場所を少なくするなどしてほしい。
・全体にあわただしかったので、もう少しゆっくり見学したかった。
・最後に日本人協会の方にお話を聞けたのが、訪問してきた場所１つ１つをつなげることができたので良かったです。
・台湾日本人会・台北市日本商工会の訪問は最終日ではなく、最初の方がいいと思った。その方が、その説明にまつわる場所に行ったときにより実感がわく。
・事前に全方面をカバーできる基礎知識をつけた方がいい。（事前学習のテーマをはじめからみんなで決めた方が良かった。）
・リフレクションの時間を共有したい。
・テスト後というのがとてもよかったです。
・もう少しおみやげを買う時間を増やしてもらえるとうれしいです。
・おみやげを買う時間をばらばらに設けるのではなく、どこかの１日に集めてほしい。台北民芸店ではなく、免税店に行くだけでよいと思う。
・免税品店では私たちが買い求めることができるものが少なかったから、別のお土産物店がいいと思う。

12　台北研修旅行に参加して、困ったことがありましたか。

・トイレに紙が流せない。
・（自分の）英会話能力があまりにも低い。
・周りの人と少しはぐれてしまっても連絡の手段がない
・行きの飛行機がとても揺れたこと。

13　その他　何でも自由にどうぞ

・現地に行くまでは不安なこともありましたが、参加してよかったと思います。充実した研修旅行になりました。
・とても有意義な研修旅行だったと思います。価値観が変わる‥‥といったら大袈裟かもしれませんが、同年代の学生がこんなにも頑張っているということ、日本人が歴史に対して無知であるということ、先人たちのすばらしい芸術品や足跡、そして台湾という国をデータではなく、自分の五感で感じることができたのは本当によい経験になりました。
・１０１にも行ってみたかったです。でもすごく楽しかったです。
・とてもすばらしい経験をすることができて、貴重な研修旅行となりました。
・とても充実した五日間で、本当に行って良かったです。
・台湾の研修は旅行では絶対に体験できないことを体験できました。深く考えることができたのはやはり台湾と日本の歴史的な関係です。それをふまえてこれからのお互いの関係、私たちがどのようにしたらいいのかと考えることができました。
・今回の研修は私にとって価値あるものでした。けれど、北一女の生徒と仲良くなれたころにお別れだったので、次研修するときは是非３日くらいにのばしてほしい。
・あっという間の５日間でしたが、充実していてとても楽しめました。また台湾に行きたいと思えました。機会があればまた別の研修旅行にも参加したいです。
・とても貴重な体験ができました。来年もしてほしいです。
・一生に一度しか体験できない貴重な時間を与えてくれたすべての方に感謝したいです。
・台北民芸品店でのお茶セミナーはとても良かったが、買い物は店員さんの押し売りが結構強烈で困った。私はそんなに買わなかったが、人によっては促されるままに決して安くないものを買っている人もいた。
・事後レポートの体系をはじめに教えてほしかった。
・ホテルや飛行機内は乾燥しているので、マスクが必要です。

資料⑭

2014.4.9　台湾研修アンケート　(　　)年(　)組　氏名(　　)

1 台湾研修旅行に参加して、どのような意識の変化がありましたか。(複数回答可)

		合計	%
1	海外の文化や歴史への興味関心が広がった	21	100%
2	日本の文化についても興味・関心が広がった	12	57%
3	科学技術やITなどにも興味・関心が広がった	5	24%
4	国際的な政治や外交などへの興味・関心が広がった	14	67%
5	国際的な経済活動への興味・関心が広がった	11	52%
6	留学したいと思うようになった	12	57%
7	海外で働きたいと思うようになった	8	38%
8	語学力を高めたいと思うようになった	20	95%
9	誰とでもコミュニケーションできる積極性を持ちたい	19	90%
10	その他	0	0%
11	特に変化は無かった	0	0%

2　帰国後に意識の変化を何羅かの行動に移せましたか。(複数回答可)

		合計	%
1	海外のニュースや記事を積極的に視聴	15	71%
2	関心を持ったテーマについて自主的に学ぶ	4	19%
3	講演会やセミナーに積極的に参加	0	0%
4	授業に積極的に取り組む	8	38%
5	語学力を高める努力をするようになった	13	62%
6	英語の検定試験を受けるようになった	1	5%
7	研修で知り合った友人と連絡を取り続けている	20	95%
8	その他	1	5%

2のテーマ回答

・台湾について、日台関係について、台中関係について

・浮世絵・仏像

4の科目について

・英語5　　日本史3　　世界史3　　地理2　　政治経済1

3　意識や行動の変化は結果として表れましたか。

Yes	17	81%
No	4	19%

具体的な結果

・台湾や外国のニュースや情勢に関心を持つようになった。6

・海外に友達ができ、連絡を取るようになりました。6

・G-TECの点数が上がった。

・台湾で学生運動などがあったとき、注意するようになったり、“アジア”という単位で物事をとらえるようになった。

・日本文化に興味を持つことができた。

・ホームステイ先の子に、日本や私の学校生活のことを伝えるために、日常の出来事を英語でどのように表すか考えるようになった。

・歴史を学ぶのがより楽しくなり、またその歴史を経た経緯に対して深く興味が及ぶようになった。
・考え方がグローバル化した。コミュニケーション力が高まった。

4　意欲や興味・関心の高まりは現在も継続していますか。

Yes	21	100%
No	0	0%

理由

・ 将来強く他国の人と関わりたいともっと強く思うようになった。
・ 海外での英語の必要さを身をもって実感したから。友人ができたことで、他の国に関心がより強まったから。2
・ 違う文化で育った同世代の人たちと知り合えたので、今でも向こうの文化などについての会話ができていると思うから。2
・ 日本文化などをまなび直そうと思った。
・ 前よりも海外のニュースを見るようになった。
・ 英語を使ってもっとコミュニケーションをとりたいと思うようになった。3
・ ホームステイ先のペアのこと連絡を取り続けているから、友人ができたから　6
・ ニュースなどで台湾の話題があるたびに思い出して、そのことに興味を持ったり、英語を頑張らないと行けないと思う。2
・ 台湾での出来事や体験は私にとってはとても大きく、もっともっと広い世界を見てみたいと思うようになったから。
・ 台湾について学んだことで視野が広がり、いろいろな考えや興味を持ち、今でも台湾で疑問に思ったことは調べたりするから。
・ 国際政治に興味がでてきて、大学の学部選びにも参考になったから。
・ テレビや新聞・雑誌で「台湾」やそれに関する言葉を聞くと自然に目がいくから。

5　台湾研修旅行は、あなたにとってどんな意味を持ちましたか。

・ もっとお互いのことを知り、関係を深くするには言語の習得や他国の文化を知ることが不可欠だと思った。　5
・ 海外の友達もできた。　3
・ ホームステイや親なしで海外に行くことなど、初めての体験を多くすることができた。たくさんの刺激を受けた。有意義な経験になった。　2
・ 海外をより身近に感じるようになり、関心が高まった。視野が広がった。　7
・ 勉強する意味が少しわかった。
・ 日本と外国の関係を考える上で、いろいろな立場で考える、ということを実践できたきっかけ。
・ 初めて外国の文化に触れられた。　2
・ 日本がどのような国か考えるきっかけになった。2
・ “アジア”という枠組みで物事を見るようになれた。
・ 自分の将来に海外は全く関係ないと思っていたが、社会に出る以上必要不可欠なのだと思った。
・ 海外の人から見た日本についての話も聞くことができるようになった。
・ 自分にはまだまだ英語力が足りないと実感した一方で、英語を母国語としない国でも、その国の文化や考え方を、英語を通じて知ることができる、つながることができるというのはとても魅力的だと感じた。
・ 台湾研修は日本や自分のことをもう一度見つめ直すことのできる時間だった。